

『信じてはいけない聖書のみことば』

'22/11/06

聖書箇所: 聖書全体から随所

今日の説教題もまた、多分、皆さんがあまり聞いたことが無いようなタイトルを付けさせていただきました。…ひょっとしたら、私たちのような福音派ではなく、リベラルな考え方を持っているような教会でなら、この様な考えを聞くかも知れませんが…、でも、私たちの教会はそうではなく、私たちは「聖書のみことばはすべて、神様のお言葉なので、すべてが真実であり、間違いが無い(ただし、原典において!）」という風に理解しております。…皆さんもそうですよね? 私だって、そうです!

命題: 私たちが、そのまま信じるべきではない聖書のみことばとは?

でも今日、私たちが学んでいきたい内容…、確認してきたいことは、(聖書を持ち上げて)「じゃあ、私たちは、この聖書の中に記されてある言葉を、そっくりそのまま…、その一部分であっても信じていますか? そうじゃないでしょ?」という話なのです。正直、今はピンと来ていなくても、きっと、今日のメッセージを終わりまで聞いてくださったら、多くの方が納得して下さると思います。

今日、私が願っていますのは、皆さんがこのメッセージを聞いてくださることによって、聖書が誤りの無い…、神様のお言葉であるという確信を強めてくださって…、だからこそ、この聖書の読み方をもっと詳しく…、もっと正しく知ってほしい、ということなのです。…と言いますのは、もしも、私たちが聖書のみことばを正しく読む&正しく理解する方法を知らなければ、私たちの信仰生活もまた、その間違った聖書の理解に引っ張られていってしまうからです。…今日は、この後で聖餐式もありますので、前置きはこのくらいにして、さっそく、聖書のみことばを、皆さんと一緒に検証していきましょう!

I・サタン の言葉! (創世記 3:1-6)

どうぞ、まずは、創世記 3 章のみことばを見ていきましょう。あそこには、蛇に姿を変えた「サタン」の発した言葉が記されてありますが、皆さんは、あのサタンが発した言葉もまた正しい…、それをそのまま信じても良いと思っておられないでしょ? まずは、そういったことなのです。どうぞ、創世記 3:1-6 のみことばをご覧ください。そこには、このように記されてあります。

- さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」
- 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。」
- しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ』と仰せになりました。」
- そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」
- あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」
- そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

● エバ に対する誘惑!

ご覧くださったら分かる通り、今読んだみことばには、蛇に姿を変えたサタンが、エバのことを誘惑しようとして、わざと、真実ではないことを言って、エバに罪を犯させたというような経緯について記されてあります。だから、神様は、エバとアダムに対してだけでなく…、サタンに対しても、御怒りになられて、彼らは皆、それ

ぞれに「神様からの裁き」を受ける羽目になってしまったわけです。そうですね? …ここからは、いろいろなこと&たくさんのごことを学ぶことができるのですが、今日のところは、時間の関係もありますので、できるだけ、今日のテーマに絞って、聖書のみことばを観察していきたいと思えます。

まず、このみことばをご覧くださいと、「サタン」という言葉は出てきていません。…しかし、聖書全体を見たら分かる通り、「言葉を話す蛇」なんて存在し得たでしょうか? …あるいは、アダムやエバと言った人類最初の存在よりも前に、罪を犯した存在&悪意を持った存在なんて、一体何者なのでしょう?

⇒どうぞ、皆さん、黙示録 12 章のみことばをご覧くださいませ? ここでは、所謂、「患難時代」に起こる事柄が預言されてあるのですが、その黙示録 12:9 に、こう記されてあります。『こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。』って…。

皆さん、聞いてくださいませ? …この聖書の中で、悪魔とか、サタンと呼ばれている、あの存在は、皆、同じ一つの存在なのです! …今日は、時間の関係もあるので、詳しく見ていきませんが、サタンは、元々は、神様によって造られた天使の 1 人だと考えられています。そのサタンが罪を犯して、墮落してしまったのです…。

でも、ここで皆さんに注目していただきたいのは、ここ黙示録のみことばが、そのサタンのことをどう説明しているか? です。『全世界を惑わす、あの古い蛇』とありますでしょ? …皆さん、『あの古い蛇』と聞いて、どの蛇をイメージします? …ついさっき見た、あの創世記 3 章に出てきた、エバのことを誘惑してきた蛇以外に考えられないでしょ!

しかも、ここ黙示録 12 章のみことばは、そのサタンのことを指して、『全世界を惑わす…』という風に説明してくれています。このように、サタンは、すべてのものを惑わそうとしています。だから、私たちは、このサタンのことを意識して…、注意&警戒しないといけません!

どうぞ、皆さん、もう 1 度、創世記 3 章のみことばに戻って、そのサタンがエバに対して発した言葉を簡単に注目していきましょう。まず、創世記 3:1 を見てみますと、『さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。…』と記されてあります。この文脈は、まず、そのサタンの狡猾さ&ズル賢さについて教えようとして書かれているのです!

さて、その蛇に姿を変えたサタンは、エバに対して、何と言ったでしょう? …まず、1 節、『あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか?』⇒どうでした? 天の神様は、アダムやエバに対して、「園のどんな木からも食べてはならない!」なんておっしゃいました? いいえ! 創世記 2:16-17 には、こう記されてあります(この時点ではアダムだけ)。『16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。』」って…。⇒神様は、「どの木からでも思いのまま食べてよい」とおっしゃってくださったのです! …ただ、「善悪の知識の木の実“だけは”取って食べてはならない!」と言われたのです。そうでしょ!

また、サタンは、こうも言いました! 4 節、『あなたがたは決して死にません!』って…。でも、実際は、どうでした? この時に、アダムとエバたちが、禁じられていた善悪の知識の木の実から取って食べてしまったことで、アダムとエバだけでなく、すべての人類が皆、基本的に死ぬ者となってしまったじゃないですか! …そうでしょ! このように、聖書の中に記されてあっても、私たちはそのすべてを信じるべきではありません。サタンの言葉は、私たちが惑わすようなものであり…、私たちが信じるべきでない、その代表的なものです。

本当は、この後で、サタンがイエス様を誘惑しようとした…、マタイ 4 章のみことばも、皆さんと一緒に確認したかったのですが、今日は時間の関係もあって、見ていくことは叶いませんでした…。

● サタンの誘惑に対して、勝利するには？

ま、そのマタイ4章のみことばを見ていなくても、もう、十分に皆さんは分かってくださっていると思います。私たちは、いくら、この聖書の中に記されてあるとは言え、私たちのことを惑わそうとしているサタンの言葉に耳を傾けるべきではありません！ そうでしょ！

どうぞ、皆さん、エペソ 6:11-12 のみことばをご覧くださいませ？…そこには、このようなみことばが記されています。『11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。12 私たちの格闘は血肉(≒人間)に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいろもろの悪霊に対するものです。』って…。

このみことばが教えてくれているように、私たちが注意 & 警戒すべき事柄は、サタンの言葉です！ サタンや悪霊たちは、非常に狡猾です！ 私たち…、人間など及びもしないほど、ズル賢いのです！ …じゃあ、そんな私たちは、どうやって、そのサタンや悪霊たちに対して対抗できる & “勝利”できるのでしょうか？…今、引用したエペソ 6 章のみことばでは、こう続いています。『13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、15 足には平和の福音の備えをはきなさい。16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のこばを受け取りなさい。』(エペソ 6:13-17)と続いています。

よく言われることですが、ここで言われている「神の武具」の中で、唯一、サタンに対して攻撃ができる武具って何でしょう？…『神のみことば』じゃありません？ 神様のみことばだけが、サタンや悪霊からの誘惑や惑わしに対して、まるで、剣のように攻撃できる武器なのです！ そうでしょ！

じゃあ、私たち、神様のみことばをまるで呪文が何かのように唱えたら…、唱え続けたら、サタンの誘惑に対して勝利できるでしょうか？…いいえ！ 2週間前のメッセージでも学んだように、神様のみことばを“ただ”暗唱して、それを“唱える”だけでは、ほとんど意味がありません。…どうか、皆さん、思い出してみてください。マタイ 4 章で、サタンに誘惑された時、イエス様は、ただ単に、聖書の一部分を唱えることで勝利されました？ それとも、みことばを乱用するサタンに対して、聖書の正しい解釈を告げて、その正しい適用を告げることで、イエス様は勝利されました？ どちらでした？

間違いなく、後者だったでしょ？…そのように、私たちは、みことばを「御霊の剣」として、サタンの誘惑に対して…、あるいは、この世の間違った価値観に対して、その問題点を鋭く突いて、やり込めることが必要なのです！…だから、そういった意味でも、私たちには、聖書のみことばが…、いや、みことばの正しい解釈と適用が必要なのです！…そうじゃないでしょうか？

II・悪意を含んだ評判！(ルカ 7:29-35)

どうぞ、次に、2番目のポイントを見ていきましょう！ 今度は、ルカ7章のみことばをお開きくださいます？…ここで私たちが学んでいきたい内容は、“悪意”を含んだ評判などです！ 私たちが注意 & 警戒すべき言葉や事柄は、サタンの言葉だけではなく、様々な悪意を含んだ“悪評”などもまた、私たちは注意 & 警戒すべきなのです。実際、聖書には、そのような悪評もまた、たくさん記されてあるからです。どうぞ、ルカ 7:29-35 のみことばをご覧ください。そこには、こう記されています。

29 ヨハネの教えを聞いたすべての民は、取税人たちさえ、ヨハネのバプテスマを受けて、神の正しいことを認めたのです。

30 これに反して、パリサイ人、律法の専門家たちは、彼からバプテスマを受けないで、神の自分たちに対するみこころを拒みしました。

31 では、この時代の人々は、何にたとえたらよいでしょう。何に似ているでしょう。

32 市場にすわって、互いに呼びかけながら、こう言っている子どもたちに似ています。『笛を吹いてやっても、君たちは踊らなかつた。弔いの歌を歌ってやっても、泣かなかつた。』

33 というわけは、バプテスマのヨハネが来て、パンも食わず、ぶどう酒も飲まずにいると、『あれは悪霊につかわれている』とあなたがたは言うし、

34 人の子が来て、食べもし、飲みもすると、『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言うのです。

35 だが、知恵の正しいことは、そのすべての子どもたちが証明します。」

● イエス様 に対する悪評！

今日、ぜひ皆さんに断っておきたいことは、今日は数カ所のみことばを引用して、そこから、いろんな原理 & 原則について学ぼうとしていますので、いつものように、1カ所のみことばを詳しく見ていけない、ということです。このみことばは、ルカ伝の講解をした、もう10年ほど前になりますが、その時に、まあまあ詳しく学んだことと思います。

さて、今読んだみことばには、どんなことが記されてありました？…簡単に言うと、こういうことです。当然、2000年前の、この時にも、神様は、大勢の者たちに対して、そのみこころを示してくださっていました。でも、それに対して、大きく分けて、2種類の反応がありました。…1つは、バプテスマのヨハネたちのグループです。何と、ユダヤ人たちから毛嫌いされていた取税人たちでさえ、神様の教え (& 招き)を受け入れて、そのヨハネから悔い改めのバプテスマを受けたでしょ？というわけです。

そうして、もう一方は、パリサイ人や律法学者たちのグループです。彼らは、ヨハネからバプテスマを受けようとせず、せっかく、神様がみこころを示して、救いへと招いてくださったのに、それを拒んだ！というわけです。だから、ここ32節では、当時の葬儀に関する習慣が例えとして挙げられているのです。

…実は、この当時、例えば、「泣き女」なる役目の女性が居て、その悲しみを、わざと盛り上げるような習慣があったわけなのです。…つまり、せっかく、神様が当時の者たちに対して、救いのメッセージを伝えるために、バプテスマのヨハネたちのような、神からのメッセンジャーを遣わしてくださったのに、パリサイ人たちは、それに同調しなかつた…、乗ってこなかつたというわけなのです。

彼らがしたことは、こうです、そのバプテスマのヨハネは、ナジル人(びと)であつたので、当時の者たちが普通に食べていたようなパンを食わず、ぶどう酒も飲まなかつたでしょ？…でも、そんなナジル人であつたヨハネのことを、当時、悪意のある者たちは、『あれは悪霊につかわれている』と言ってはバカにしたのです。

しかも、彼らは、今度、イエス様が来て、普通に食べたり飲んだりしていると、34節にあるように、『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言って、今度は、イエス様が普通に食べたり、飲んだりしていることをバカにした、というのです。

実は、私は、自分自身の学び & 研鑽のために、時々、YouTubeなどで、他の教会のメッセージなどを聞いたりもするのですが、先日、ある教会のメッセージを聞きましたら、ちょうど、このみことばを引用されていて、このみことばから、「あのイエス様だって、食いしん坊だったんだし、大酒飲みだったんだ…」というような主旨のメッセージを語っておられました。…でも、本当に、そうだったのでしょうか？

私は、違うと思っています。…確かに、イエス様は、ナジル人ではなかつたので、髪の毛を伸ばし放題ということもなかつたでしょうし、イエス様がぶどう酒を飲まれたということも、聖書には記されています(最後の晩餐の時など)。でも、イエス様は、完璧に、御自分のことを自制される…、また、自制できたはずなので、そのイエス様が、「食べ過ぎる」ということは決して無かつたのではないのでしょうか？まして、大酒飲みなんていうのは、明らかに、神様のみこころじゃないし、罪じゃないですか！…そうでしょ！

何より、コリコカ 7 章に記されてある、「イエス様が食いしん坊であったとか、大酒飲みであった」というのは、この当時、一部の者…、しかも、それはイエス様に敵対していたような者たちが、“そう言っていた”ということだけを教えているだけであって、事実がそうであったということだけを教えているわけではありません。そうでしょ？

● パウロ に対する悪評！

それだけではありません！ 今度は、それとよく似た状況で、パウロのことが記されてある、**Ⅱコリント 10 章**のみことばをご覧ください。そこには、こう記されてあります、『10 彼らは言います。「パウロの手紙は重みがあって力強いが、実際に会った場合の彼は弱々しく、その話しぶりは、なっていない。」』11 そういう人はよく承知しておきなさい。離れているときに書く手紙のことがそうなら、いっしょにいるときの行動もそのとおりです。』（Ⅱコリント 10:10-11）

⇒実は、さっき紹介したのとは全く別の教会、別の牧師先生のメッセージで、このみことばを引用して、「あのパウロだって、手紙は力強いが、パウロのメッセージは、そうでもなかったようです」というようなことをおっしゃっておられました。でも、そうでしょうか？ 本当に、そんなことを、このみことばは教えてくれています？ 違いますでしょ！ このみことばが教えてくれているのは、そんなことを言うような者たちが“居る”けれども、実際は、そうじゃない！ ということであったはず。実際、パウロが力強いメッセージを語っていたというのは、パウロが書いたみことばを見ても…、あるいは、聖書のみことばを見ても明らかではありません。

例えば、使徒 26 章などを見ても、使徒パウロは、当時のアグリッパ王に対して、自分の弁明をしていた時、そのアグリッパ王の側近とも言い得る総督のフェストがパウロに対して言ったことが記されてあります、『パウロがこのように弁明していると、フェストが大声で、「気が狂っているぞ。パウロ。博学があなたの気を狂わせている」と言った。』（使徒 26:24）とあります。…正直、ここにはパウロが雄弁であったとは記されてありませんが、パウロが大胆であった！ 臆せず、キリストのメッセージを語る者であった、と言い得るのではないのでしょうか？

● 私たちが聖書を 解釈 する時に気を付けるべきこと！

このように、私たちが聖書のみことばを読む時…、つまり、聖書を“解釈”する時、そのみことばが、どのような意図をもって書かれ…、どのような分脈で書かれてあるのか？ ということ、をよくよく考える必要があります。例えば、もう聖書は開きませんけれども、マタイ 2 章で紹介されてある、あのヘロデ大王は、途中までしか読まない、「イエス様のことを拝もうとしたのかな？」と思えますが、でも、もう少し後まで読み進めると、実は、そうではなくて、イエス様のことを殺そうとしていた、ということが分かりますでしょ？

そのように、私たちが聖書のみことばを読む時、そのみことばが、どのような意図で書かれてあるのか？ どのような分脈で書かれてあるのか？ ということ、をよくよく観察して、読み込まないと、まるっきり見当違いの理解…、全く正反対の解釈をしてしまうことが有り得るのです。

Ⅲ・分脈 を無視したみことば！（マタイ 7:1-5）

そういうわけで、今からは、最後3つ目のポイントを通して、“分脈”を無視して、聖書のみことばを読むことが如何に危険で…、実際に、多くの間違いを生んでしまっているか、ということを確認していきたいと思えます。どうぞ、今度は、マタイ 7:1-5 をご覧くださいませ？ そこには、こう記されてあります。

1 さばいてはいけません。さばかれたいからです。

2 あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。

3 また、なぜあなたは、兄弟の目のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。

4 兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください』などどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。

5 偽善者よ。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。

● 『さばいてはいけません！』は正しい理解でしょうか？

今日、引用しているみことばは、ほとんどが有名なみことば…、あるいは、クリスチャンなら誰でも知っているようなみことばしか参照していません。今読んだのも、かなり有名なみことばです。…さて、このみことばは、皆さん、どのように理解しておられます？…実は、時々、私が耳にしますのは、この『さばいてはいけません！』というみことばから、「クリスチャンというのは、いついかなる時でも、他人のことを批判したりして、裁いてはならない！ さばいても良いのは、魚だけだ！（笑）」みたいなことを聞くことがあります。

確かに、ここで、「さばく」と訳されてあるギリシア語の言葉(κρίνω)を、辞書で調べてみると、そこには、「①裁く、裁判する、②決める、判断する、③治める、支配する…」というような意味だそうです。でも、皆さん、このみことばって、「私たちがいついかなる場合であっても他人のことを裁いてはいけません！」ということを教えているのでしょうか？…確かに、ここ 1 節“だけ”を見てみると、そう見えますよ！…でも、ここでイエス様がおっしゃられた 2 節以降のみことばも読んでみますと、イエス様が言いたかったのは、「どんな場合でも、人を裁いてはならない！」ということでは“なくて…”、「他人のことをあれこれと裁く前に、まずは、あなた自身が自分のことを、しっかりと正しなさい！」ということ、をイエス様は、特に、パリサイ人たちが律法学者たちに対して教えておられるのではありませんか？…だから、ここでも、『偽善者よ！』とあるわけでしょ？

…だって、今読んだみことばでも、最後には、『…まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。』とあって、まずは、自分自身の問題を正しなさい！ そうすれば、あなたも、他人の問題点を指摘できて、それを正してあげることができますよ！ ということ、を教えてくださいませんか？

● パウロ が実践したこと & 命令！

このように理解しないと、私たちは、ある大きな矛盾を抱えてしまいます。…どうぞ、皆さん、Ⅰコリント 5 章のみことばをお聞きくださいませ？ Ⅰコリント 5:1-5 に、このように記されてあります。『1 あなたがたの間に不品行があるということが言われています。しかもそれは、異邦人の中にもないほどの不品行で、父の妻を妻にしている者がいるとのこと。2 それなのに、あなたがたは誇り高ぶっています。そればかりか、そのような行いをしている者をあなたがたの中から取り除こうとして悲しむこともなかったのです。3 私のほうでは、からだはそこにいなくても心はそこにおり、現にそこにいるのと同じように、そのような行いをした者を主イエスの御名によってすでにさばきました。4 あなたがたが集まったときに、私も、霊においてともにおり、私たちの主イエスの権能をもって、5 このような者をサタンに引き渡したのです。それは彼の肉が滅ぼされるためですが、それによって彼の霊が主の日に救われるためです。』

⇒このみことばを見てみますと、3 節で、パウロは、コリント教会の中で…、つまり、クリスチャンであると言いつつ、自分の義理の母親を自分の妻にしたような者が居る！…しかも、そのような者のことを、パウロは「裁いた」ということを教えてくれていますでしょ？…ちなみに、ここで『さばきました』と訳されてある所には、先程、私たちが見たマタイ 7 章で用いられてあるのと、同じ言葉が使われています。…じゃあ、パウロは、この時、罪を犯したのでしょうか？…いいえ！ パウロは、ここで、そのことを『主イエスの御名によって』なした！ ということ、を教えてくださいませんか？…つまり、そのことは、主イエス様のみことばであったのです。

多分、皆さんは、よくご存知のはずです。ここ 5 章の最後で、パウロは、神様のみこころがどういふものであるのか？その真意を分かりやすく教えてくれています。I コリント 5:11-13、『11 私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけなく、いっしょに食事をしていけなく、ということです。12 外部の人たちをさばくことは、私のすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。13 外部の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除きなさい。』

⇒このように、聖書のみことばは、明らかに、私たちが、「神の前に正しい裁きを下すべき」ことを教えてくれています。そうじゃありません？…決して、私たちクリスチャンは、どんな裁きも下してはいけなく！なんて、聖書のみことばは教えていないのです！

…と言いますのも、あのイエス様だって、マタイ 18 章で、『また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。…』(マタイ 18:15)という、あのくだりで、最終的に、その兄弟が罪を悔い改めなかったら、『異邦人が取税人のように扱いなさい！』ということで、明らかに、「罪を犯し続ける兄弟に対しては、教会がはっきりとした処分を下しなさい！裁きなさい！」ということを教えてくださっているからです。…そうでしょ！皆さん？

●実際、多くのクリスチャンたちが 間違っ て 理解してしまっていること

じゃあ、今から、もうほとんど時間がありませんが、実際に、多くのクリスチャンたちが“間違っ て”理解してしまっている聖書のみことばを挙げていきたいと思います。…まずは、ここマタイ 18 章のみことばです。実は、ここマタイ 18 章の 19b-20 節の部分は、間違っ て解釈されている代表的なみことばです。そこには、こうあります。『19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつなげて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中に入ります。』⇒時々、私が耳にするのは、このみことばから、「何か、祈禱会のような集会をイメージして、2人でも、3人でも、クリスチャンがキリストの名において集まるなら、イエス様もそこに居てくださっている…」というような理解 & 解釈です。でも、このみことばは、本当にそんなことを教えてくれているのでしょうか？

いいえ、そうではありません。…と言うのは、その直前に、『まことに、あなたがたにもう一度、告げます。』というみことばがあることから分かります。…もしも、ここで言われていることが、「祈禱会に数人しか人数が集まらなくても気にするな」ということを教えているのなら、その直前にも、同じようなことが教えられてあるはずですが、でも、この直前には、そういったことは教えられてありませんでしょ？…もし、このみことばの正しい解釈 & 理解に興味があるようでしたら、どうぞ、八田西 CC の YouTube チャンネルで、今年の 4/24 に語られたメッセージを聞いてみてください。

それと、もう時間が無いですが、最後に、もう1つだけ…。私が言いたいのは、イザヤ 43:4 のみことばです。あそこのみことばは、数多くの伝道メッセージや多くの方々の証しで引用されています。『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。』というものです。皆さんも、よくご存知でしょ？…でも、私が耳にする、このみことばは、9割近くが、そのみことばの後半部分をカットして、メッセージからも、証しからも省かれてしまっています。一体、どうしてなのでしょう？…それは、その部分が、メッセージをするにしても、証しをするにしても、都合が悪いからです。

このみことばから、よくメッセージされるのは、「神の目に、あなたは高価で尊い！神様は、あなたのことを、まるで、高価な宝石のように価値あるものとして見てくださっているのですよ！」というような内容です。

でも、果たして、そのような理解 & 解釈は正しいのでしょうか？…申し訳ありませんが、今日は、もうそのことについて説明できる時間がありません。ですから、もしも、皆さんの中で、イザヤ 43:4 に関するメッセージをお聞きになりたかったら、どうか、これまた、八田西 CC の YouTube チャンネルで公開されてある、今年の 5/1 に語られたメッセージか、2020/4/19(録音状態が良くないが…)のメッセージを聞いてみてください。

<励ましの言葉>

正直、それ以外にも、もう少し、紹介したいみことばがあったのですが、今日は、もう時間が無いので、メッセージを終わらせないといけません。でも、どうか、皆さん。これだけは覚えておいてください！…サタンや悪霊たちは本当に狡猾で、彼らは、数も多いのです。しかも、聖書のみことばが教えてくれていることは、この世は今、一時的、また、限定的に、そのサタンの支配下にある、ということです(ヨハネ 14:30)。…そんな彼らに対抗し、サタンの誘惑に勝利できるのは、私たちの正しい聖書理解であり…、1番に優先してほしいのは、純粋な信仰です！

どうか、そのために、しっかりと聖書を学ぶことを追い求めてください！いい加減で、適当な聖書の学びで満足してしまわないでください！マタイ 4 章に記されてあるように、サタンは聖書のみことばを、神様のみことばとは違った形で引用してきます。惑わしてきます！そんなサタンに勝利できるのは、みことばを正しく解釈して、それを、私たちが正しく自分たちの生活に適用していくことです。…そうじゃないでしょうか？

どうか、皆さんが聖書を読み…、また、学ばれる時、どうか、その聖書の 1-2 節だけをちょこちょこ読んで理解しようとするのではなく、よく、その前後のみことばを読んで、その他のみことばが教えてくれている内容と矛盾しないかどうか？などよく考えてみてください！これは、私自身も実践しようとしていることですが…、「自分だけが正しい」と思い込むのではなく、神様と人の前にへりくだって…、常に、正しいみことばの解釈を追い求めるような姿勢を持ち続けていただきたいと思います。

実は、皆さんにも、1番に実践してほしいところは、そこなんです！確かに、私たちに、「こうであつたら嬉しいなー。こう教えてくれたら都合が良いなー」というような願望や期待、あるいは、思い込みがあつたりします。でも、そういったような思い込みや偏見から、間違っ た聖書理解や聖書解釈に入ってしまうことが多いのです。…どうか、純粋に、聖書の正しい解釈(=神様のみこころ)を求めて、どうすることを神様が望んでおられるのか？ということを考えてください。…そんな純粋な信仰を追い求めてください！

そうして、そんな純粋な信仰があれば、私たちは、より正しい聖書解釈…、つまり、神様のみこころというものをより詳しく、より深く知っていけると 생각합니다。…どうか、天の神様が、皆さんのことを、ますます、霊的に成長させていってくださいますように…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。